

コロナ禍における地域の魅力化活動の広報手法についての一考察 ～徳島県海陽町竹ヶ島を事例として～

ニタコンサルタント(株) 賛助会員 ○岡田玲央
ニタコンサルタント(株) 賛助会員 蓑田仁美
竹ヶ島海域公園自然再生協議会 岩瀬文人

ニタコンサルタント(株) 賛助会員 岡田直也
ニタコンサルタント(株) 正会員 安藝浩資
海陽町産業観光課 戎谷 悟

1. はじめに

四国東南部に位置する徳島県海陽町（人口：8831人，世帯数：4517世帯，令和3年10月1日現在）にある竹ヶ島海域公園（9.9ha，昭和47年指定）周辺では，平成15年度より海域公園に生息するサンゴ群集の自律的な再生を指標に「やま・かわ・うみ」の自然と地域活力の再生を目指した「竹ヶ島海域自然再生事業」が行われている。さらに，平成28年度からは再生活動とまちの活性化・魅力化を一体とするため，海域の重要種である藻場再生を加え，「竹ヶ島海域公園魅力化事業」として地元自治体の海陽町を中心に組み込まれている。

事業開始当初は，地元住民や関係者などの間で，意見の違いなどから対立が感じられたこともあったが，約20年間の活動を通じて相互理解が進み，地元小学校の総合学習に取り入れられ地域シンポジウム（図2）の場で発表するまでに至っている。

2020年2月頃に顕著化したコロナ禍の影響で，シンポジウムなど従来手法での普及啓発が制限される中，継続的・効果的に発信するためPV（プロモーションビデオ）作成とCATVの活用を行った。本報告では作成したPVを紹介するとともに，伝わりにくい地域活動の普及啓発におけるPVとCATVの活用について考察する。

2. PVの構成概要

PVの構成は主に次の10項目である（写真1,2,3,4）。

- ① オープニング「海陽町竹ヶ島海域公園魅力化事業」
- ② 竹ヶ島海域公園自然再生協議会 副会長
「竹ヶ島自然再生について」
- ③ 海域での自然再生活動の概要
- ④ 海陽町立穴喰小学校6年生「大好き穴喰ちゃんねる」
- ⑤ 海陽町観光協会職員 「まちへの思い」
- ⑥ 穴喰漁協青壮年部部长 「うみへの思い」
- ⑦ 海陽町自然海洋博物館マリンジム館長兼船長 「海域公園への思い」
- ⑧ 海陽町商工観光課 課長 「まちの未来への思い」
- ⑨ 自然再生協議会 副会長 「四国人として」
- ⑩ エンディング「海陽町は海と海を思う人の魅力であふれている」



図1 事業紹介番組のお知らせ（付属資料1）



図2 開催通知の一例



写真1 稚サンゴの放流準備



写真2 専門家による環境学習



写真3 住民による施肥袋の準備



写真4 住民による施肥

3. 産官学民の連携体制

製作主体は海陽町、映像制作と配信に係るコーディネーションは、ニタコンサルタント株式会社である。協力団体は、海陽町立宍喰小学校、宍喰漁業協同組合、海陽町海洋自然博物館マリンジヤム、竹ヶ島海域公園魅力化事業検討会議（平成28年創設）、および竹ヶ島海域公園自然再生協議会（平成18年創設）である。検討会、協議会は、いずれも産官学民の個人・各種団体で構成される任意組織である（写真5）。

4. コロナ禍における広報の工夫

これまでは地域広報イベントとして集客型のシンポジウムを開催していた（写真6）。しかし、コロナ禍の影響で開催を中止せざるを得なかったことを契機に、関係団体の協力の下、新たな発信方法として30分間のPVを作成し、徳島県下の40%以上（世帯数ベース）をカバーするケーブルテレビ網（1局）を活用し、令和3年3月29日の初回放送を含め全10回の放送を行った。また、県内の非カバーエリアと全国向けにはYouTube（約6か月間で467回視聴）とFacebookを用いた。今回、定量的な調査は行えていないが、地元関係者から、住民に活動について声をかけられることが多くなったなどの情報も寄せられており、定性的ではあるが一定の効果を感じることができた。



写真5 検討会議の様子

5. まとめ

今回のコロナ禍を契機としたPV配信は、長く地道な地域活動を必要とする自然環境と地域活力の再生活動、地域魅力化活動といった、伝えにくい活動の重要性や魅力を、活動風景、地域の姿や歴史文化とともに関係者の想いを添えて、30分という短い時間で、広く伝わり続けることを可能とする新たな発信方式であると強く認識した。今後、徳島県下の80%以上をカバーするより広域のCATV網を活用していきたいと考えている。

謝辞：本報告は、海陽町立宍喰小学校、宍喰漁業協同組合、海陽町海洋自然博物館マリンジヤム、竹ヶ島海域公園魅力化事業検討会議、および竹ヶ島海域公園自然再生協議会の皆様との協働の下に実施できたものである。ここに関係各位に深く謝意を表する。



写真6 シンポジウムの様子